

所属校種	校内研修（教科部会や学年会でも可）としてやってよかった（効果があった）事例を記入してください。
3. 高等学校	毎年実施している校内の公開授業で、必ず1人1台端末を活用した授業を実践してもらった。先生方のスキルに応じて、振り返りなどの簡単な内容から、各種アプリ等を使用する授業まで、様々な活用方法で実践されていた。
3. 高等学校	教育相談室とコラボした校内職員研修を実施した。悩みを抱える生徒への対応をJamboardを使用しながら、事例検討の形でグループごとに検討した。Jamboardを用いることで、グループ内の意見の共有、全体での共有を効果的に行うことができた。
3. 高等学校	生徒アンケートの結果を各教員で共有することで多くの生徒が1人1台端末授業を希望していることが明確化でき使用する教員が少し増加したと思われる。
3. 高等学校	校内研修としてmeetを使用した。職員室で普段使用しているPCおよびクロームブックを使い小グループで行うことで互いに理解共有することができた。今後のリモート研修や、生徒保護者等の面談時など緊急の場合であっても対応することが可能であると思われる。
3. 高等学校	GIGAサポート課に研修を依頼し、習熟度別に2グループに分けて研修を行った。初級コースの先生は実際に操作しながらGoogleに挑戦できたし、上級者コースの先生は、ロイロノートを実際に試してみるいい機会となった。いずれも授業で使うことをイメージしながらできたことが良かったと思う。
3. 高等学校	若手プロ対象の教員を校内研修の講師に任命し、毎回講師を変えることで異なる内容で研修を実施することができた。毎回レベルアップする内容と毎回ベーシックな内容の研修を開催することでICTが苦手な先生が毎回参加できるような工夫をした。
3. 高等学校	昨年の研修を活かし、GIGAチェック用紙を作成し、少し使える職員が少し使えない職員に教えるグループ制を導入。レベル別にどこまでできるようになったかを確認し、全員が使えるように取り組んでいる。また、全体としては、それぞれの分野でのアプリ練習会を開催している。
3. 高等学校	校内研修会において、情報Iで行った情報モラルの授業の紹介を行った。 GIGA研修で教えて頂いた、静岡大学教育学部准教授の塩田真吾先生の研究室が静岡県警少年課の監修のもと開発した「場面強制想像法」を用いた教材の紹介を行った。 教材では、「自分が自画撮りを送ってしまうシチュエーションを考える」（場面強制想像法）というワークを行うことで、「もしかしたら自分も自画撮りトラブルにあってしまうかも」という自覚を促し、それらの場面での「断るスキル」を身につけることを目的としているものであるが、先生方に生徒の立場で実践して頂いた。 なお、生徒に対する実践については事前、事後とも塩田先生連絡・報告済みである。 参考： https://cmsl.ishikawa-c.ed.jp/nisikh/blogs/blog_entries/view/157/686cf162a0a106875ecbc0d5527d9e06?frame_id=107
3. 高等学校	教科毎に月に一度、授業中の様子を動画で5分程度撮影し、Teamsにアップロードする。動画をもとに、教科会で協議をおこなう。動画で撮影しアップロードするだけではあるが実際の活動の様子が残るうえに、教科ごとに研修を進めていることが、全体として確認できる。また、どの職員からも常に見ることができると、職員全体への実践事例の紹介にも活用できる。
3. 高等学校	<ul style="list-style-type: none"> ・去年行ったGIGAの研修会のデータも全体で共有しながら、今年度からプチ研修として短時間の研修を取り入れた。その結果として、教員が気軽に参加し学ぶことができるため、教員の負担感が減ったように感じる。 ・理科の教科会において、授業のこの場面・単元などで必ずChromebookを用いて行う内容を決めておき、使用するファイルなども共有することで、スムーズに活用することができた。
3. 高等学校	年度当初に、オフラインモードでのアプリ利用について研修を行った。オフライン下でも利用が可能なることを知らなかった先生も多くおり、活用の幅を広げるきっかけとして、効果があった。実際、総合的な探究の時間におけるフィールドリサーチ等で外部に出かけた際、オフラインモードを利用し、記録を残すことに活用されている。
3. 高等学校	Microsoft の Teams を使って活用事例の共有を行った。Teamsのファイル上に書き込むだけであるため、気軽に事例を入力することができた。また、事例の真似をして活用を増やすことができた。
3. 高等学校	互見授業期間として、教員が互いに1人1台端末を利用した授業を参観する機会を設けた。他の教員の活用場面を見ることで、活用に関するヒントを得られたり、普段見ることのできない、生徒の他の教科での取り組みの様子などを知ることができ、生徒理解にもつなげるきっかけとなった。
3. 高等学校	校内研修として、各学年団ごとに1人1台端末をテーマとした授業発表、授業見学を行い意見交換ならびに情報共有を図った。教科の特性を活かしたり、他の教科でもできる行いを学べるなど実り多い研修となった。また他教科での生徒の様子を把握できる機会ともなり、生徒理解にも繋げることができた。教材作成例の共有、Chromebookの使い方
3. 高等学校	校内研修を月に1回設定し、各教科の実践発表を順番に行っている。国語や保健の授業の発表の際に、ロイロノートのテストやアンケート機能を使い、授業の振り返りや小テストを行った実践事例は、どの教科にも活用できるものであり参考になった。